

オーディオ実験室収載

アースアキュライザーの導入(4)(HP 収載) ーフォノケーブルアースと仮想アースの接続(2)ー

1. 始めに

前報(3)に引き続き、アナログシステムを替えて、フォノケーブルアースと仮想アースの接続に使用してみます。

2. アースアキュライザーEA-1の試聴計画

前報(3)では、LINN LP-12のフォノケーブルアースと仮想アースの接続に使用してみました。

今回のアナログシステムは、Tohrens TD124とし、Tohrens TD124のフォノケーブルのアース線とCrystal Eの間にアースアキュライザーを介在させて接続してみます。Tohrens TD124はCrystal Eと設置に距離がありますので、現在は、光城精工のCrystal E付属のアースケーブルで中継していますが、このアースケーブルをアースアキュライザーに交換します。



光城精工のアースケーブル アースアキュライザー

なお、ZANDEN Model 120とCrystal Eの接続は、元の光城精工のアースケーブルClone2Lのままとします。

音源は下記を使用します。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein (Vn)

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーヴェン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル
EMI AA 9117・C
フリードリッヒ・ヘンデル メサイア
オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

3. アースアキュライザーEA-1の試聴結果

TohrensTD124のフォノケーブルのアース線とCrystal Eの間の光城精工の仮想アースに付属してきた中継アースケーブルのうち後者をアースアキュライザーに替えて接続した結果は次のとおりです。

バッハのSonatas & Partitasは、若干残っていたエッジの効きすぎたきつきがとれ、音に緻密さと滑らかさがでてきます。

ベートーヴェンの選帝侯のソナタは、余分な響きが整理され、クリーンな響きになります。

ワーグナーのワルキューレは、オーケストラの分離がよくなり、ソプラノやメゾソプラノの声の質感が明瞭になり、定位がしっかりしてきます。

ヘンデルのメサイアは、合唱の分離がよくなり、弦やソプラノとバスの声の質感が向上し、通奏低音も明瞭さが増します。

以上のように、TohrensTD124の中継アースケーブルをアースアキュライザーに替える効果はありましたが、効果は前報(2)ほどではありません。

前報(2)では置き換え、前報(3)では継ぎ足し、今回は中継ケーブルの置き換えですので、こういった条件の違いが効果に現れているものと思われます。

これらの結果を総合すると、アースアキュライザーはフォノイコライザーとCrystal Eとの接続に使用し、取り外した光城精工の別売りアースケーブルClone2はTohrensTD124の中継アースケーブルとして利用するのが良さそうです。

なお、フォノケーブルのアース線については、根元から取り換えるのが理想と思われます。

4. まとめ

TohrensTD124の中継アースケーブルをアースアキュライザーに替える効果はありましたが、効果は前報(2)ほどではありませんでした。

以上